

遺稿

訪問者

我門前に立ちて敲く、我声を聞きて我に門を開く人あらば、我其内に入りて彼と晚餐を共にし、彼も亦我と共にすべし。 黙示録

第一篇 怯懦の子

こつ、こつ

こつ、こつ……

誰人ぞ今宵わが門を叩く者あり
日は暮れて、凜寒く吹き悩む

こつ、こつ

こつ、こつ……

われ深く黙して答へず
半ばを過ぎし書を読みつぎぬ

こつ、こつ

こつ、こつ……

訪へる声やまず続けり
凜はいよよ募る
われ炉に薪を投げ入れ
尚も黙せり、耳を覆ふ……

こつ、こつ

こつ、こつ……

旅人よ、何とてわが門を叩く
旅人よ、何とてわが門を叩く
われに何をか告げむとするや
われ知らず、わが扉開かざるべし
……旅人よ、わが門を過ぎよ
わが隣にも人の子は在り

こつ、こつ

こつ、こつ……

噫旅人よ、執拗なり

われは沈黙の人、孤独を愛す

われは聞くを好まず、聞かざるを欲す

われをして在るべき所に在らしめよ

……旅人よ、とくわが門を過ぎよ

しかして汝に受くるものに尋ねよ

こつ、こつ

こつ、こつ……

旅人、汝呪われてあれ

何ぞわれに怨みを持つか

如何なれば斯くもわれを求め

如何なれば斯くもわが安居やすみを亂すや

汝に向ひ、外に開かむより

われは寧ろわが裡に死ぬるを望む

……旅人、汝わが門を行け

われは蝮の裔にして汝を嚙まむ

こつ、こつ

こつ、こつ……

おお夙よ募れ、闇また来たれ

われ汝を呪はむ

汝、如何に叩くとも

わが扉は固く、朝に至るも閉さるべし

われは汝を知らず、われは汝に聞かず

さなり、われは己に生くるなり

……噫旅人、とくわが門を去れ

然らずば人の子汝を渡すべし

吾子よ、吾なり、扉を開けよ
汝を地に産みし者来たれるなり
吾、はるばると尋ね来るに
汝、如何なれば斯く門を閉じたる
吾子よとく開けよ
外は暗く、凧はいよよ募れり

噫父なりしか
父なりしか、宥せかし
おん身と知らば速やかに開きしものを
噫何とてわが心かくは盲ひ、かくは聾せり
わが父よ、しまし待たれよ
わが裡はあまりに乏しく
わが住居あまりに暗し
いとせめて、おん身を迎ふ灯とな点さむ

これ吾子よ、何とて騒ぐ
吾が来たれるは
汝をして悲しませむとにはあらで
喜ばさむ為なり
吾が来れば
乏しくは富み、そが糧は充たされるべし
吾久しく凧の門辺に佇ちて
汝を呼ぶことしきりなれば
吾が手足いたく冷えたり

噫わが父よ、畏れ多し
われおん身が、わが門を叩き
われを求むを知り得たり
されど、われ怯懦にして、おん身を疎み
斯くは固く門を閉じたり
噫おん身を悲しませし事如何ばかりぞや
われ如何にしてお宥しを乞はむ
さはれ、われは伏して、裡に愧づなり
わが父よ、いざ来たりませ

吾子よ、畏るゝ勿れ

非を知りて悔ゆるに何とて愧づる

夫れ、人の子の父、いかでその子を憎まむ

吾今より汝が裡に住まむ

汝もまた吾が裡に住むべし

父よ、忝けなし

われ、何をもておん身に謝せむ

わが偽善なる書も、怯懦の椅子も

凡て炉に投げ入れむ

わが父よ、いざ寛ぎて、暖を取りませ

われ囚人めしひにして、怯懦の子、蝮の裔

おん身を凧の寒きに追ひて

噫如何ばかり苦しませしや

最愛の子よ、吾が膝に来よ

而して、汝が幼き時の眠りを睡れ

そは吾が睡り甘美あまければなり

われおん身を離し去らしめじ

わが貧しきを見そなはして

わが裡に住み給へば

われもまたおん身の裡に生きむ

噫永久とこし久に、われ、おん身の裡に生きむ

父よ、われをしてこの歡喜の裡に死なしめよ

父よ、われをしてこの希望の裡に生かしめよ

わが園生のたそがれに
愛ぐしき者の訪ひぬ

幽かに匂ふ御衣の
さやかなるこそ貴けれ

遙るかにわれをみそなはし
近づき給ふ御気色の
いよよ気高くすゞるかに

われ御衣に触れみむと
心怪しく騒ぐかな

噫如何なれば斯くならむ
悲しきわが智消えうせよ

時は過ぎゆくわがなべに
なにとて御手を承ぐべしや

おん方われをみそなはし
訪ひ給ふこそ畏けれ

(心静かにわれをみよ
われのいづくに迷ひあり)

噫げに愚かなる僕かな
せめて御足を給ひかし

おん方笑ませ給ひつゝ
わが手を取りて貴しや
癩者の膿を吸ひ給ひぬ